

人性觀 與 法哲學

—— 羊乎？ 狼乎？

長尾龍一◎著 陳才崑・黃源盛◎譯註

中日文對照



版 權



之 章

1997年3月1日

第一版／第一刷

人性觀與法哲學（中日文對照）

原 著 者：長尾龍一

譯 者：陳才崑・黃源盛

發 行 人：廖 雪 鳳

登 記 證：行政院新聞局局版台業字第 5221 號

出 版 者：商鼎文化出版社

地址／台北市金山南路二段 138 號 2 樓

電話／ (02) 395-2248

傳真／ (02) 396-2195

郵撥／第 18185210 號 本社帳戶

INTERNET 網際網站址：



<http://chienhua.com.tw/chienac.htm>

E-Mail: leo@chienhua.com.tw

法律顧問：呂沐基律師

編輯主任：甯開遠

執行編輯：林禮寧

日文處理：莊士勳

製 版：明國照相製版公司

印 刷：雨利美術印刷公司

裝 訂：義明裝訂廠

定 價：350 元

ISBN：957-9563-13-6

• 版權所有・翻印必究 •

本書如有缺頁、破損、裝訂錯誤，請寄回本公司更換

國家圖書館出版品預行編目資料

人性觀與法哲學：羊乎？狼乎？（中日文對照）／
長尾龍一撰；陳才崑，黃源盛譯註，——第一版
，——臺北市：商鼎文化，1997〔民86〕
面； 公分
ISBN 957-9563-13-6（平裝）

1.法律－哲學，原理

580.1

86000799

讀者服務表

非常感謝您購買這本書。為加強對您的服務，請您詳細填寫本表。您可以直接寄給我們（免貼郵票）或利用傳真，即可不定期收到最新出版訊息。

您的大名：

先生
小姐

年齡： 電話：

.....

學 歷：☐ 國中 ☐ 高中、高職 ☐ 大學（專科） ☐ 研究所及以上

職業別：☐ 服務業 ☐ 製造業 ☐ 金融保險業 ☐ 服飾業

☐ 資訊業 ☐ 公家機關 ☐ 工作室 ☐ 教師

☐ 宗教團體 ☐ 學生 ☐ 家庭主婦

職 位：☐ 負責人 ☐ 高階主管 ☐ 中堅份子 ☐ 一般職員

.....

 閱讀興趣：☐ 1 商學企管 ☐ 2 文史故事 ☐ 3 心靈哲學
☐ 6 散文小說 ☐ 10 宗教叢書 ☐ 5 養生氣功
☐ 4 藝術類 ☐ 11 法律叢書 ☐ A 高普特考

 請問您如何得知這本書？

☐ 1 朋友介紹 ☐ 2 報紙廣告 ☐ 3 逛書店剛好看到
☐ 5 收到 DM ☐ 6 由千華書訊中得知 ☐ 4 其他

 請問您是否經常上網路？

☐ N 從來沒上過 ☐ O 偶爾上去玩玩 ☐ F 網路常客



INTERNET 網際網路站址：<http://chienhua.com.tw>

E-MAIL：leoeunis@ms3.hinet.net

.....

 留言：



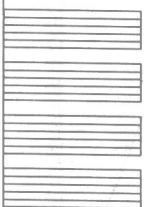
廣告回信

台灣北區郵政管理局登記證
北臺字第 9637 號
郵資由本社負擔

106

商鼎文化出版社 收

台北市金山南路二段138號2樓



讀者服務表專用回函



INTERNET 網際網路站址：

<http://chienhua.com.tw>

路 縣 市
(街)
段 巷
弄 號
寄 樓

B82-051

991

港台書室

人性觀與法哲學

——羊乎？狼乎？

(中日文對照)



長尾龍一著 /

陳才崑・黃源盛譯註

00810074

商鼎文化出版社

なぜ人間社会に「法」が必要なのか

どこの国でも法律家という人種は、恐れられ、毛嫌いされ、仮にモテるにしても、せいぜい「こわもて」という程度だということになっています。それには無理もないところもあります。紛争・犯罪・刑罰などという武骨な主題を、外国輸入の聞き慣れない言葉で、平然とまくしたてる人種など、お人好しの庶民に、近づき難く感じられるのも当然でしょう。

紛争もなく、犯罪もなく、裁判所も刑務所もなく、従って法律家もいない世の中、古来人々は、そのような理想社会を夢見て来ました。中にはその実現のために一生を捧げた人々（アナーキストたち）もいます。このような理想主義者たちは、どんな夢を描いたのか、彼等の理想はなぜ実現しなかったのか、このような問いから出発して、「人間社会における法の存在理由」という問題に接近するのが、この講座の目的です。

前半の六回は、古今の思想家たちの思想を素材として、「人間性と法」という主題について考え、後半の五回は、犯罪と人間の本性〔刑法〕、利己主義者の世界〔民法〕、裁判と暴力〔民事訴訟法〕、羊と狼の民主主義〔憲法〕、戦争はなくせるか〔国際法〕など、法の諸領域の基本問題について考えてみたいと思います。そして最終回には、日本人の訴訟嫌いという現象を手懸りとして、「人間性と法」という問題の一事例である「法と日本人」という主題に、触れてみたいと思っています。

人爲何需要「法律」？（原序）

不論在哪個國家，法律人這種「人種」是令人退避三舍的，即便是說頗爲吃香，其吃香程度亦屬叫人「敬畏」一型的。這本無可厚非，乃因面對著糾紛、犯罪、刑罰等等硬梆梆的主題，他們卻都率爾滿口盡是些日常鮮聞的外來術語，像這類「人種」，自不用說，當然是很難令善良的常民百姓覺得好親近的。

自古以來，對於沒有糾紛，沒有犯罪，沒有法院，沒有監獄，從而也沒有法律人——這樣的理想社會，人們即十分憧憬。之中，甚至有人還爲了實現它而付出了一生（無政府主義者）。到底諸如此類的理想主義者，他們勾繪過什麼樣的旖旎美景呢？又爲何他們未曾實現過自己的理想？本講座就是擬由此一疑點出發，來探討「法律於人類社會中存在的理由」。

前半部的六講，係以古往今來思想家的思想爲素材，思考「人性與法律」的主題。後半部的前五講乃針對法律的各領域進行研討，分別爲「犯罪與人性」（刑法）、「自私主義者的世界」（民法）、「裁判與暴力」（民事訴訟法）、「羊型與狼型的民主政治」（憲法）、「戰爭何日休」（國際法）。

至於最後一講，則擬以日本人討厭訴訟的現象爲思考線索，觸及「法律與日本人」這個屬於「人性與法律」的實例主題。

閱讀導言與翻譯餘話（譯序）

本書係日本放送協會（NHK）教育電視台「市民大學」系列講座的教材，文筆明快幽默，深入淺出，相當引人入勝，非常適合法律初學者作為釐清基礎觀念的啓蒙書。譯本之所以採用中日文對照方式，理由無它，乃是期能一舉兩得，俾便讀者既可奠定法哲學之紮實根基，同時又能增進專業日文的閱讀能力。從而，為了方便讀者對照研讀起見，迺譯時亦特別保留了若干直譯的筆調。至於書中援引春秋戰國諸子部分，則儘可能地還原成文言文，以求忠實原味。

作者長尾龍一（NAGAO-RYUICHI），1938年生於中國黑龍江省齊齊哈爾，東京大學法學院出身，現任教於其母校，是為戰後日本法哲學界的主流新銳，主要著作有：『日本法思想史』、『法哲學入門』、『遠景的法學』、『美國知識人與遠東』、『凱爾森周邊』、『現代法哲學I；II；III』（合編）及其他多種。

本書原名「法を考える」，非常口語化，「法」（HO）是「法、法律」，「考える」（KANGAERU；思索、思考）是他動詞，「を」（WO）表示「法」是「考える」的受詞，簡單直譯可為『探索法思想』，附標題則原文與譯本同。但正如「羊乎？狼乎？」之附題所示，作者係以探討人性與法律秩序之存立關係作為貫穿全書的主調，故乃迺譯之為『人性觀與法哲學』。

當然，社會科學不免會有社會文化上的差異性，關於書中原作者引用的日本法條、實例等部份，譯者皆以註釋方式，或說明日本背景，或補充我國的相關資料，相信讀者尚不致於有「霧裡看花」之困惑，說不定兩相比較之下，反而因此增廣了視野，獲得意想不到的收穫。

法哲學與政治哲學其實諸多重疊，諸如政治哲學的基本課題：政治與道德；權利與自由；自由與平等；社會與個人；國家安全與市民的權利；服從與抵抗權；傳統與革新；革命與正義，凡此多半亦屬法哲學關心的主題。本書譯註者即是分別出身於上述二支領域，有鑑於探究學術應有之真誠與嚴謹，故乃運用各自所長，合力譯註此書，庶幾完備。

世間之所以需要法律與政治，歸根究柢，皆因我們人是一種緊張地擺動於神性與獸性之間的存在（此兩者之間尚有感性、理性、悟性等），而透過本書精彩的剖析與闡發，讀者亦不難窺出在世間法的源頭處，實潛藏著若干旨趣歧異，卻又足以發人深省的「冷澈的人性觀察」。

一九九六年十月十日 陳才崑

目 次

第1回	ひとはなぜ争うか	8
第2回	黄金時代の神話	30
第3回	法律のないユートピア	52
第4回	苔虫と人間	74
第5回	義の争い、利の争い	96
第6回	知性をもった狼	116
第7回	犯罪と人間の本性	138
第8回	利己主義者の世界	160
第9回	裁判と暴力	182
第10回	羊と狼の民主主義	204
第11回	戦争はなくせるか	226
第12回	法と日本人	246

目 錄

第1章 人為何爭執

- 一、兄弟姊妹爭吵的功用 \ 9
- 二、骨肉相殘 \ 15
- 三、爭執與人性 \ 19

第2章 黃金時代的神話

- 一、海希奧德與黃金時代 \ 31
- 二、奧維德與黃金時代 \ 37
- 三、無政府主義的和諧樂園 \ 43

第3章 毋須法律的烏托邦

- 一、昭和時代的殺手們 \ 53
- 二、馬克斯主義與無政府主義 \ 57
- 三、自主秩序 \ 65

第4章 青苔與人

- 一、理想的團體生活 \ 75
- 二、勢力範圍與順位次序 \ 79
- 三、人是社會性的動物 \ 83
- 四、非社會性動物的人 \ 89

第5章 義利之爭

- 一、「義」與「義」之爭 \ 97
- 二、悲劇的王子 \ 107
- 三、定「分」 \ 111

第6章 有智慧的野狼

- 一、「白雪公主」裡的女王 \ 117
- 二、蜜蜂螞蟥和人 \ 121
- 三、衆人對衆人的鬥爭 \ 129
- 四、權力巨獸・獬豸 \ 133

第7章 犯罪與人的本性

- 一、監獄世界 \ 139
- 二、作為報應之刑罰 \ 143

三、過去之惡與將來之善 \ 147

四、作為宿命之犯罪 \ 149

五、犯罪與社會 \ 159

**第8章 自私主義者的世界**

一、衣櫥裡的法律關係 \ 161

二、於「愛的共同體」之外 \ 167

三、「我的」與「你的」 \ 171

四、鬥爭轉化為競爭 \ 177

第9章 裁判與暴力

一、談判解決糾紛 \ 183

二、討債 \ 187

三、關於「債務名義」 \ 191

四、裁判儀式與遊戲規則 \ 195

五、訴訟事關大眾 \ 199

第10章 羊型與狼型的民主政治

一、民衆的自治能力 \ 205

二、青年期的民主政治 \ 209

三、民主政治的考驗 \ 213

四、野狼變家犬 \ 221

第11章 戰爭何日休

一、安妮的預言 \ 227

二、麥克阿瑟的終結論 \ 229

三、日本國憲法第九條 \ 235

四、兩種和平論 \ 243

第12章 法律與日本人

一、「咱們日本人」徵候群 \ 247

二、「非訴訟社會」的日本 \ 253

三、「緣」的有無 \ 257

四、日本人喜歡規矩 \ 261

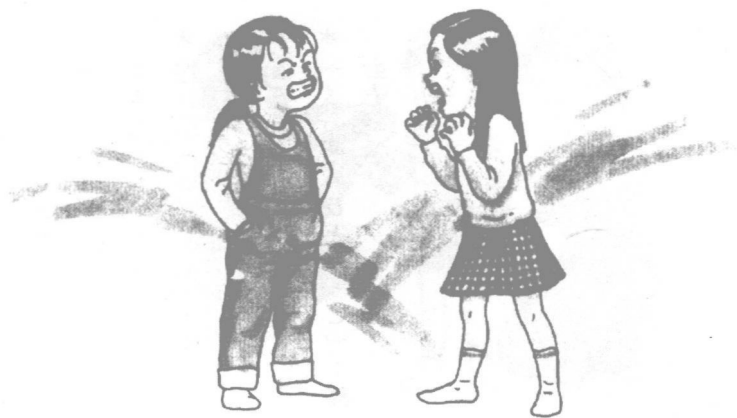
* ひっし（必死）に：拼命地、
認真投入地。

第 1 回

ひととはなぜ争うか

一、兄弟喧嘩の効用

わたしは妹と
いつもけんかをするが
わたしは妹がすきだ
でもけんかをするときは
「ばか」
といてしまう
けんかをしているときは
ひっし*にやっている
だけどけんかをやった後は
悪かったなとおもう
ふしぎだな



第 1 章

人爲何爭執？

一、兄弟姊妹爭吵的功用

我和妹妹經常吵架
可是我喜歡妹妹啊
即使是這樣，吵起架來
我總是會說她
「笨蛋」
每當吵起架來
我都是拚死拚活的
但是吵完架之後
我卻會覺得對不起她
真是好奇怪

* 兄弟喧嘩（きょうだいけんか）：日語之兄弟，廣義包括姊妹；喧嘩有吵架、爭吵、打架等意。

* 捌け口（はけぐち）：裂口、發洩口。

* ころがる：滾動、到處都有。

* 一人っ子（ひとりっこ）：獨生子。

これは、小学校四年生の少女の詩です。かわいく感じている妹なのに、いったん喧嘩になると必死になるという、兄弟喧嘩*の心理がかわいく描かれています。子犬や子猫がじゃれあうように、子供にとって兄弟喧嘩はひとつのスポーツです。子供の体の中には元気が有り余っていて、いつも捌け口*を求めており、そういう子供が二人いれば、つつきっこから、やがて取っ組み合いへと発展することは間違いありません。

喧嘩の原因はいくらでもころがっています*。おもちゃの取り合い、トランプをするかおもてで遊ぶかの意見の違い、容貌や体格などについて侮辱的なことを言ったとか言わないとかという自尊心の争い、いつも一方が親にほめられるとか、成績がいいとかいうことから生ずる嫉妬など、多種多様です。たいていは一方が泣いて終りになり、しばらくするとまた二人で仲良く遊び始めます。

年齢の近い兄弟をもって、毎日喧嘩して育った人と、兄弟がいない一人っ子とでは、随分違った人格ができあがると言われています。どちらがよいかと言えば、それは一長一短でしょうが、社会人としての成熟という点だけからすれば、兄弟喧嘩の経験者の方がずっと進んでいます。彼らは、他人と利害や意見が対立しても、一人っ子*より上手に喧嘩し、上手に妥協し、上手に仲直りする技術を心得ています。



這是一名國小四年級小女生所作的詩。明明覺得自己的妹妹長得很可愛，可是一旦吵起架來卻也是拚死拚活的。允稱很可愛地描繪出兄弟姊妹爭吵的心理。對小孩子而言，兄弟姊妹爭吵其實就好像小狗或小貓的嬉戲，係一種體育運動。小孩子的體內積累過剩的精力，時常需要尋求發洩口，若是兩個小孩在一起，毫無疑問一定會由彼此頂撞發展成相互扭打的。

至於爲何爭吵的原因，俯拾即有，多彩多樣，舉凡爲了搶玩具、玩撲克牌或是到門前遊戲之“意見不合”，抑或爲著對長相體格曾否說了侮辱性的話之“自尊心的爭執”，以及因單方面時常受到父母的誇讚或學校成績好所引起的“嫉妒心”等，均屬之。大抵結局都是一方開始號啕大哭，一會兒之後，卻又和好如初地玩在一起。

據說，年齡相近的兄弟姊妹於每日爭吵之中成長過來的人和那些沒有兄弟姊妹的獨生子，會形成彼此迥異的人格。若說何者爲好，答案當然是長短互見，如果就社會人的成熟度來看，有經驗過兄弟姊妹爭吵的一方會比較成熟。縱使和別人有利害或意見對立的情形，他們也會比獨生子更懂得爭吵，更懂得妥協，更明瞭恢復友好之道。

*我儘（わがまま）：任性、放肆、恣意。

*いじめ：欺負、欺凌、虐待、欺侮。

*手加減（てかげん）：斟酌、拿捏。

それに対し一人っ子は、親にかわいがられて育つ反面、親以外の人とのつきあいが下手で、つい我儘*が出て、対人関係で傷つくことが多く、他人といった喧嘩になると、仲直りがなかなか困難なようです。最近「いじめ」*が広く問題になってきた大きな理由のひとつも、一人っ子が多くなって、兄弟喧嘩の経験がなく、子供たちが喧嘩や仲直りの手加減*を知らないところにあるといわれています。

ショーペンハウアー（一七八八～一八六〇年）というドイツの哲学者は、「人間は寒い日のハリネズミのようなものだ。近づき過ぎると痛い。遠ざかり過ぎると寒い。ちょうど適当な距離をとって暮らさねばならぬ」といっています。これは人生についての鋭い観察でもあります。彼には九歳年下の妹がいましたが、実際上一人っ子同様に育ったといっているでしょう。

ここでショーペンハウアーがハリネズミの針にたとえているのは、人間のナルシズム（自己愛）でしょう。私たちが遠くから見てあこがれていた人が、お近づきになると、ナルシズムの臭いをぷんぷんと発散していて、いっぺんにいやになるという経験を時々します。こちらもしっかりと相手に同様の思いをさせているのだらうと思いますが、そこで私はいつも、このショーペンハウアーの言葉を思い出します。